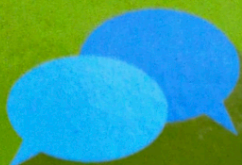


Español Lengua Extranjera



Preparación al examen

Especial DELE B1 Curso completo

Curso:

Paz Bartolomé

María José Barrios

Modelos de examen:

Mónica García-Viñó



Audio descargable

 edelsa

Comprensión de lectura

文章読解問題

TAREA 4 P51・52 重要語句・フレーズ

第1段落

psicólogo / psicóloga 「心理学者」

decir que ○○「○○と言う」

síndrome 「症候群」

infantil 「幼児の」「小児の」

soñar con ○○「○○の夢を見る」

soñar con + 動詞原型「～することを夢みる」

第2段落

surgir 「現れる」「生じる」「起こる」

relato 「物語」

promiscuo / promiscua は形容詞で、辞書を引くと

「見境なく性的関係を結ぶ」と記載されています。

ここでは el promiscuo don Juan なので「制欲の強いドン・ファン」などのように捉えると良いです。

seducir a ○○「○○を誘惑する」「口説く」：異性間の性的な意味を含みます
militar「軍の」「軍人」

matar a ○○「○○を殺す」

acudir a ○○「○○へ行く」
cementerio「墓地」「墓場」

invitar a ○○ **a** ～「○○を～に招待する」
estatua funeraria「埋葬像」

víctima「被害者」「犠牲者」
recobrar「回復する・取り戻す」

asistir a ○○「○○に参加する」
banquete「宴会」「ご馳走」

devolver「返す」「返却する」

c)

pero el primer tratamiento literario formal de la historia es El burlado de Sevilla y convidado de piedra (1630), de Tirso de Molina,

しかし、最初に正式に歴史文学で取り扱われたのは、1630年公開の、ティルソ・デ・モリーナの「セビージャの色事師と石の客」です。

tratamiento は「取扱い」「待遇」「治療」という意味ですが、ここでは「作品」というニュアンスで捉えると良いです。

literario / literaria「文学の」
formal「正式な」

e)

De nuevo en el cementerio, el fantasma atrapa a don Juan y lo arroja al infierno.

再び、墓地において、幽霊がドン・フアンに取り憑き、地獄へ導くのです。

atrapar 「捕まえる」

第3段落

Hacia 1657 の **Hacia** は、どう捉えていいか分からなかった人も多いかもしれません。「～へ」という方向を表すことが多いですが、「～頃」「～あたり」という意味で使われることもあります。

escenificar 「上演する」「脚色する」

dramaturgo / dramaturga 「脚本家」

estrenada は、estrenar 「初演する」「デビューする」という動詞の過去分詞ですね。「初めて演じられた」という感じで捉えると良いです。

retomar 「再開する」「再び始める」

castigado は、castigar 「罰する」という動詞の過去分詞なので「罰せられた」という感じで捉えると良いです。

componer 「作曲する」「構成する」

libreto 「(劇などの) 台本」

de todos los tiempos 「全時代で」

ここは、前に mejor がありますので「史上最高の」という感じですね。

a)

Es a partir de ese momento cuando la historia se extiende por toda Europa.

それが、ドン・ファンの物語がヨーロッパ全土に広まる始まりの瞬間です。

es a partir de ○○「○○の始まりである」

extender は「広げる」「伸ばす」、se extiende で「広まる」ですね。

例えば、「噂が広まる」などは se extiende が使えますね。

第4段落

cambió el tratamiento de personaje は直訳すれば「人の扱いを変えた」ということですが、要するに、ドン・ファンの描き方を変えた、見境なく女性を口説いたり誘惑したりする男、というのではなく、別の人物像で描くようになった、ということですね。

en cambio「その代わりに」「それに引き換え」

sentirse atraído por ○○「○○に魅力を感じる・惹かれる」

この後に出てくる **se sentía fascinado por ○○** も、同じような意味の表現になります。

rebelde「反逆者・謀反人」「反逆の」「反抗的な」

amante「愛好家」「愛人」

libertad「自由」

analizar「分析する」「調べる」

teorizar「理論づける」「理論を立てる」

seductor「誘惑者」「女ったらし」

hasta entonces 「それまで」
encarnar 「演じる」「体現する」

mal は、ここでは el mal なので「悪」という名詞になります。
culpable 「罪のある」「有罪の」

salvar 「助ける・救う」
salvarse 「助かる」

poema 「詩」
purgatorio 「煉獄」「(罪滅ぼしの) 苦行」

h)

Hasta ese momento don Juan siempre acabada castigado por sus pecados en el infierno.

それまでは、ドン・フアンは、自らの罪により罰せられ、地獄で死を遂げていました。

第5段落

como vemos 「このように」「見ての通り」
a lo largo de ○○ 「○○を通して」「○○に沿って」

autor / autora 「作家・著者」
transformar a ○○ en～ 「○○を～に変える」

amado / amada 「愛する人」
aunque + 接続法現在形 「たとえ～でも」

f)

pero sin duda alguna la que más ha perdurado y se ha representado más veces es el Tenorio de Zorrilla (1844).

しかし、最も長く続き最も多く上演されているのは、「テノリオ・デ・ソリージャ（1844年）」です。

sin duda 「間違いなく」

perdurar 「長続きする」

representar 「上演する」「表わす・表現する」

第6段落

agotado / agotada 「枯渇した」「疲れ果てた」

「売り切れている・売り切れた」と表現する時も使うことができます。

seguir + 現在分詞 / continuar + 現在分詞 「～し続ける」「引き続き～する」

a través de ○○ 「○○を通じて」

intelectual 「知識人」「知的な」

talla は、ここではあえて訳さなくても良いでしょう。

b)

Incluso en cine en los últimos años lo ha presentado de la mano de Gonzalo Suárez como un hombre atrapado por el destino en Don Juan en los infiernos.

近年の映画では、ゴンサロ・スアレスの映画「地獄のドン・ファン」でも、運命に囚われて男、として描かれています。

incluso は、内容を強調したい時に使われます。

第7段落

habrá は、haber の未来系の活用ですね。Habrà cabida para don Juan 「ドン・ファンのための収容能力がある」となりますが、ここまでの話の流れを感上げると、「上演されるのでしょうか？」という感じで捉えると良いですね。「

では、以下に、解答からは漏れた選択肢も確認しておきましょう。

d)

Por eso se llama popularmente don Juan al hombre al que le gusta seducir a las mujeres y luego abandonarlas.

だから、女性をたぶらかすことが好きで、その後、女性を捨てる男性のことを世間一般ではドン・ファンと言います。

popularmente 「世間一般に」「一般に」

abandonar 「放棄する」

g)

Respecto al papel de la mujer en estas obras, suele ser el de una víctima del protagonista.

これらの作品での女性の役割については、いつも主人公の被害者です。

respecto a ○○ 「○○に関して」

suele +動詞原型 「(習慣的に) いつも～する」… 過去形でもよく使われます

では、以下に今回のスペイン語の文章の日本語訳を記載しておきます。

ドン・フアンの伝説

心理学者たちは、幼稚症であると言いますが、ドン・フアンになりたいと夢見ない男性なんているのでしょうか？

ドン・フアンの伝説は中世の時代に生まれましたが、最初に正式に歴史文学で取り扱われたのは、1630 年公開の、ティルソ・デ・モリーナの

「セビージャの色事師と石の客」です。ドン・フアンはセビージャの軍の司令官であるゴンサロの娘を、性的関係を持つことで誘惑する物語です。軍人を殺した後、墓地に行き、殺した軍人の埋葬像を晩餐会に招待します。埋葬像は命を取り戻し、晩餐会に出席し、招待をお返しするのです。再び、墓地において、幽霊がドン・フアンに取り憑き、地獄へ導くのです。

1657 年頃、イタリア人の旅役者たちがフランスで、その作品を上演しました。それが、ドン・フアンの物語がヨーロッパ全土に広まる始まりの瞬間です。フランス人脚本家、モリエレは 1665 年に初演となる脚本を書きます。17 世紀の間、ゴルドニは「罰せられる放蕩者、フアン・テノリオ（1734 年）」でテーマを再開し、ムーツァルトはこの台本で、史上最高のオペラの一つ、「ドン・ジョバニ（1787 年）」を作曲します。

19 世紀、ロマン主義により、人物の扱いは変わりました。それまでは、ドン・フアンは、自らの罪により罰せられ、地獄で死を遂げていました。一方、反逆者と自由を愛する人々に惹かれたロマン主義では、この人物像に魅了され、その人間性を分析し、それまで悪を体現していた誘惑者が罪を感じているのかどうか、救われるべきかどうかを理論化します。バイロン男爵は 1819 年から 1824 年に詩「ドン・フアン」を発表し、プロスペル・メリメは「煉獄の魂 2 人のドン・フアン（1834 年）」の中で 2 つの人格を描いています。

このように、多くの作品が歴史を通じてドン・ファンについて書かれてきましたが、最も長く続き最も多く上演されているのは、「テノリオ・デ・ソリージャ（1844年）」です。この著者は、ドン・ファンを、たとえ死後の世界であろうと、愛する人の腕の中で死んでいく、共感を生む英雄として描いています。

ドン・ファンをテーマにした作品は終わったと思われていましたが、20世紀に、グレゴリオ・マラニョンやアメリコ・カストロ、ラモン・メネデス・ピダルなどの識者により分析が続けられています。近年の映画では、ゴンサロ・スアレスの映画「地獄のドン・ファン」でも、運命に囚われて男、として描かれています。

21世紀には、ドン・ファンは上演されるでしょうか？

では、最後に課題です。

今回の問題のスペイン語の文章を、
最低5回は音読しましょう。なぜか？それは、、、

- ・スペイン語を話すことに慣れる
 - ・動詞の活用の変化に慣れる
 - ・口に出すことで脳を活性化させ、語彙力を高める
- ということです。

以下のサイトで、発音を確認することが出来ます。

<https://ondoku3.com/ja/>

「ここに読み上げたいテキストを貼りつけてください。」という文字を消し、そこに読み上げたい（発音を確認したい）スペイン語を貼り付けます。
次に、「言語」を Español に変えます。Español España か Español México で良いでしょう。速度は「×1」が標準速度となります。

最後に「読み上げ」をクリックすると、発音を確認出来ます。